

第66回日本生物地理学会年次大会プログラム

会場:立教大学 14号館 D201 号室

東京都豊島区西池袋 3-34-1 (JR 池袋駅から東武側出口 or 地下道エチカ 歩7分)

大会第1日目 4月9日(土)

11:00-12:00 評議員会(評議員のみ) 立教大学太刀川記念館 1F

12:30 受付開始

総合司会:山田 一之(日本生物地理学会)

13:00-13:05 開会の挨拶 森中 定治(日本生物地理学会会長)

一般発表

座長:本間 義治(新潟大・医・第3解剖学)

13:05-13:30 日本・朝鮮半島の干潟貝類相の生物地理学的再検討(予報)

○山下 博由(貝類多様性研)・佐藤 慎一(東北大)・池口 明子(横浜国大)

13:30-13:55 下顎形態の変異からみた富山県産イノシシにおける遺伝子流動

○古橋 芳輝・安田 暁・宮部 慎吾・山崎 裕治・横畑 泰志(富山大・院・理工)

座長:山根 正氣(鹿児島大・理工)

13:55-14:20 新潟・佐渡沿岸と沖合における海生哺乳類の漂着・漂泳・捕獲記録再調査

本間 義治(新潟大・医・第3解剖学)

14:20-14:45 日本産ヤマユガ科の生物地理

町島 佳幸(放送大・院)

14:45-15:10 水田のバイオエアコンとしてのはたらき～温度調節効果の解析～

○中里 直(板橋区立中台中学校)・稲垣 照美(茨城大・工)・小淵 直樹(玉川大・農)・小石 裕之・干場 英弘(玉川大・院・農)

15:10-15:30 (休憩)

15:30-

ミニシンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？」

共催 日本生物地理学会・立教大学

オーガナイザー:森中 定治, 三中 信宏(独 農業環境技術研究所/東京大・院・農学生命科学)

趣旨説明 - 正義・生命・人 森中 定治(日本生物地理学会)

子ども参画による国際協力活動～子どもは世界をかえられるか～

(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 代表理事 中島 早苗

『人間は生きものである』を考える JT 生命誌研究館館長 中村 桂子

総合質疑 中島 早苗, 中村 桂子

司会 森中 定治, 三中 信宏

18:00-18:30 学会総会(編集, 会計報告など)

向井 貴彦(岐阜大学地域科学部), 山田 一之(日本生物地理学会),
蒲生 康重(進化生物学研)

19:00- 懇親会

大会第2日目 4月10日(日)

一般発表

座長:尾形 比呂哉(日本生物地理学会)

10:00-10:25 生物群集の多様性:Shannon 指数を用いた多次元構造の解析
山田 一之(日本生物地理学会)

10:25-10:50 シリアゲアリ属ヒラズシリアゲアリ亜属(膜翅目・アリ科)の再発見
○山根 正気(鹿児島大・理工)・田中 洋・市岡 孝朗(京都大・人間・環境)

座長:山田 一之(日本生物地理学会)

10:50-11:15 日本海中部陸棚砂泥底におけるマクロベントス相と海洋環境との対応関係の解明
—多変量解析法によるアプローチ—

木暮 陽一(水産総合研究センター日本海区水産研)

11:15-11:40 マダガスカル西部ムルンベ地域におけるバオバブの景観状況と保存
○橋詰 二三夫・蒲生 康重(進化生物学研)

11:40-11:45 日本生物地理学会学会賞 表彰
久保田 信(京都大フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

11:45-13:00 (昼食)

座長:蒲生 康重(進化生物学研)

13:00-13:25 海岸線にそって線状分布するハマダンゴムシ *Tylos ranuliferus* の系統地理
○新倉 弥幸・八畑 謙介(筑波大生命環境科学研究科)

13:25-13:50 伊豆諸島八丈島の外来爬虫類はいかにして持ち込まれたか～非意図的に導入された外来種の侵入ルート推定～

○岡本 卓(国立環境研)・栗山 武夫(東邦大)・五箇 公一(国立環境研)

13:50-14:10 (休憩)

14:10-

シンポジウム「生命とは何か？」

オーガナイザー:森中 定治, 三中 信宏

司会:三中 信宏, 長野 敬

14:10-14:20 趣旨説明 三中 信宏(独 農業環境技術研究所/東京大・院・農学生命科学)

14:20-14:50 いのちの単位
森中 定治(日本生物地理学会)

14:50-15:30 不老不死!ベニクラゲ(刺胞動物門, ヒドロ虫綱)
久保田 信(京都大フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

15:30-16:10 「生命とは何か」—複雑系生命科学へ
金子 邦彦(東大総合文化・複雑系生命システム研究センター)

16:10-16:30 特別発言
長野 敬(自治医科大名誉教授)

16:30- 総合質疑

17:00- 閉会の辞 山田 一之(日本生物地理学会)